

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名 筆者の考えを捉えて、自分の考えを発表しよう

教材名 (練習教材) 思いやりのデザイン / (本教材) アップとルーズで伝える / (情報) 考えと例

2 指導の立場

(1) 単元について

第4学年では、説明的文章について段落相互の關係に着目し、考えとそれを支える理由・事例の關係を読み取る学習を積み重ねる。本単元は2教材で構成され、練習教材での学びを生かして本教材に取り組み、右記の資質・能力の定着をねらう。さらに、「考えと例」を基に、他領域でも活用できるようにすることを目指す。

2教材の説明文はどちらも、情報を伝える側の視点から、情報の伝え方とその長所・短所が取り上げられており、その叙述の特徴は、「対比的な説明」「主張の繰り返し(双括型)」「具体例の提示」である。段落相互の關係や、文章と図・写真との対応が明快であり、筆者の考えとそれを支える事例の關係が捉えやすい。

そこで、単元を通して行う言語活動として『アップとルーズで伝える』の技を生かして、係活動のお知らせを伝えよう」と設定した。児童は、筆者の説明の技法を探る中で、対比的な説明などのよさに気づき、単元の目標に迫ることができると考える。

(2) 本時について

本時は、「アップとルーズで伝える」第4・5段落の対比的な説明から、そのよさを考える学習である。それぞれの段落が教科書の左右のページに対照的に掲載され、アップとルーズそれぞれの「伝えやすいこと・伝えにくいこと」が掴みやすい。そして、この説明が「何かを伝えるときには、このアップとルーズを選んだり組み合わせたりすることが大切」という筆者の考えに説得力をもたせている。

そこで、本時の前半において対比的な説明を読み取る活動を、後半にそのよさを考える活動を位置付けた。前半では、対比が「伝えやすいこと・伝えにくいこと」から接続語や写真に至るまで用いられていることで、アップとルーズの違いがはっきりすることを理解できるようにする。後半では、その対比的な説明によって、筆者の考えが読み手に分かりやすくなっていることに気づけるようにする。

(3) 学習指導要領との関わり

【知識及び技能】

(1)カ 主語と述語との關係、修飾と被修飾との關係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。

(2)ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との關係について理解すること。

【思考力・判断力・表現力等】C 読むこと

(1)ア 段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

(4) 単元の目標と評価規準

◎考えとそれを支える理由や事例の關係について理解することができる(知(2)ア)。

◎段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基にとらえることができる(思C(1)ア)

○段落の役割について理解することができる(知(1)力)

○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる(思C(1)オ)

【知識及び技能】

・段落の役割について理解している。
・考えとそれを支える理由や事例との關係について理解している。

【思考力・判断力・表現力】

・段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えている。
・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。

【学びに向かう力】

・考えとそれを支える理由や事例との關係などを捉えることに積極的に取り組み、課題に沿って考えを発表しようとしている。

3 研究との関わり

(1) 研究内容 2

学習活動1では、前時で学習した「思いやりのデザイン」の段落構成と比較することで、第4・5段落が対比であることを予想し、個人追究において対比に着目した読み取りができるようにする。

学習活動4・5では、「対比を使って説明すると、読む人にとってどんなよいことがあるか。」と問うことで、本時前半で児童が認識した対比の明快さが、考えを分かりやすく伝えようとする筆者の意図であることに気づけるようにする。

学習活動5では、「対比を使った説明について、発表に生かせることは何か」と問い、自らの学びが単元を通して変容しつつあることを、児童が認識できるようにする。

(2) 研究内容 3

学習活動2・3では、児童のつまずきを「叙述から見つける」「文と文を比べる」「複数見つける」と、本時の目標とつなげて分類した。これらに対して、「共通点」「目的語」「段落内の対比」に着目できるような援助を行う。

学習活動4・5では、よさに気づけない小集団に『しかし』がなくても、筆者の考えに納得できる気持ちは変わらないか』など問い、読者の視点から考えられるようにする。

4 単元指導計画

次	時	単元の見直し 見方・考え方
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通して行う言語活動を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 言語活動：「アップとルーズで伝える」の技を生かして、係活動のお知らせを伝えよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 「思いやりのデザイン」を読み、段落構成を考えながら「対比」「双括型」を理解する。
	2	<ul style="list-style-type: none"> 「考えと例」を読み、考えと例の関係に着目して、「具体例」の内容を理解する。
2	3	<ul style="list-style-type: none"> 「アップとルーズで伝える」を読み、段落同士や文同士をつなぐ言葉に着目して、「思いやりのデザイン」の段落構成との共通点を考える。
	4	<ul style="list-style-type: none"> 第3・8段落に筆者の考えが繰り返し書かれていることに着目して、「双括型」のよさについて考える。
	5 本時	<ul style="list-style-type: none"> 第4・5段落の叙述からアップとルーズの「対比」に着目し、そのよさを考える。
	6	<ul style="list-style-type: none"> 第6・7段落の類比の関係に着目して、「具体例」のよさについて考える。
3	7	<ul style="list-style-type: none"> 『「アップとルーズで伝える」の技を生かして、係活動のお知らせを伝えよう』に向けて、3つの特徴を用いて自分の係活動のお知らせを考える。
	8	<ul style="list-style-type: none"> お知らせを読み合い、考えを捉えたり伝えたりするとき大切なことを振り返る。

5 本時の目標 (5/8)

第4・5段落からアップとルーズの対比を読み取り、その説明のよさを考える活動を通して、それぞれの段落の文と文を比べて読むことで、二つの事例の違いが明確となり、考えが伝わりやすくなることに気づくことができる。【思考力・判断力・表現力等】

6 本時の展開

	ねらい	学習活動	研究との関わり												
つかむ	段落の構成や内容から、課題解決に見通しをもつことができる。	1 前時までの学習を振り返り、本時の課題を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> 「中」について、「思いやりのデザイン」では第3・4段落が対比になっていたが、「アップとルーズで伝える」では、第4・5段落が対比になっていたそう。 「アップ」と「ルーズ」の言葉は対比のようだが、内容を詳しく読んで対比を見つけられるか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第4段落と第5段落から対比を見つけ、その説明のよさを考えよう。 </div>	1 <研究2-①> <ul style="list-style-type: none"> 本教材と練習教材の段落構成を比較して、叙述にある対比に着目できるようにする。 												
深める	叙述の共通点に着目して、考えの理由・根拠を捉えることができる。	2 個人で追究し、本時の課題に対する考えをもつ。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>第4段落(アップ)</th> <th>第5段落(ルーズ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伝えやすい</td> <td> ・全身で喜びを表しながら走る選手の様子。 ・細かい部分の様子。 </td> <td> ・選手と応援した人たちが一体となって勝利を喜び合う様子。 ・広い範囲の様子。 </td> </tr> <tr> <td></td> <td>「しかし」</td> <td>「でも」</td> </tr> <tr> <td>伝えにくい</td> <td> ・ゴールを決められたチームの選手の様子。 ・それぞれの応援席の様子。 ・映されていない多くの部分のこと。 </td> <td> ・各選手の顔つきや視線。 ・各選手の気持ち。 </td> </tr> </tbody> </table>		第4段落(アップ)	第5段落(ルーズ)	伝えやすい	・全身で喜びを表しながら走る選手の様子。 ・細かい部分の様子。	・選手と応援した人たちが一体となって勝利を喜び合う様子。 ・広い範囲の様子。		「しかし」	「でも」	伝えにくい	・ゴールを決められたチームの選手の様子。 ・それぞれの応援席の様子。 ・映されていない多くの部分のこと。	・各選手の顔つきや視線。 ・各選手の気持ち。	2・3 <研究3-①②> <ul style="list-style-type: none"> 考えをもてない要因を分類して、援助する。 a：対比された叙述を見つけていることができない。→それぞれの段落に共通している言葉を探す。 b：対比の内容が理解できない。→「分かります」などが何を指しているのか、文を囲う。 c：対比を複数見つけていない。→段落相互だけでなく、段落内の対比を探す。
	第4段落(アップ)	第5段落(ルーズ)													
伝えやすい	・全身で喜びを表しながら走る選手の様子。 ・細かい部分の様子。	・選手と応援した人たちが一体となって勝利を喜び合う様子。 ・広い範囲の様子。													
	「しかし」	「でも」													
伝えにくい	・ゴールを決められたチームの選手の様子。 ・それぞれの応援席の様子。 ・映されていない多くの部分のこと。	・各選手の顔つきや視線。 ・各選手の気持ち。													
	他者の考えと自分の考えを広げることができる。	3 2について全体で交流し、対比を表す表現を確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> 「しかし」「でも」は、それまでの逆のことを説明していることが分かる。 「よく分かります」「分かりません」は同じまとまりであることが分かる。 	4・5 <研究2-②> <ul style="list-style-type: none"> 「対比を使って例を説明すると、読む人にとってどんなよいことがあるか」と問い、仲間と検討することで、全員がそのよさを納得できるようにする。 												
	筆者の着目し、深めることができる。	4 3～4人の小グループで交流し、対比的な説明のよさを考える。 <ul style="list-style-type: none"> アップとルーズの違いが分かりやすい。 第6段落の「それぞれ伝えられることと伝えられないこと」が何かははっきりする。 アップで伝えられないことが、ルーズで補われていることが分かる。 筆者の考えである「何かを伝えるときにはアップとルーズを選んだり組み合わせたりすることが大切」が伝わりやすい。 	6 <研究2-③> <ul style="list-style-type: none"> 「対比を使った説明について、係活動のお知らせで生かせることは何か。」と問い、単元を見通した学びを認識できるようにする。 												
まとめる	本時の単語つと学習の活動を振り返ることができる。	5 4について全体で交流し、対比的な説明のよさを確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> 多くのチームで、「違いがはっきりする」という考えが出た。 それぞれの伝えにくいことが、もう一方の伝えやすいことになっていることに気づいた。 	評価規準【思考力・判断力・表現力等】 <ul style="list-style-type: none"> 対比によって考えが伝わりやすくなることに気づいている。(発言、ノート記述) 												
		6 対比的な説明について、係活動のお知らせに生かすことを振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> アップとルーズの例を対比で説明すると、その違いがはっきりした。 「しかし」「でも」といった同じような言葉を使うと、対比していることに気づきやすい。 文だけでなく、写真のような資料でも対比すると、より分かりやすい。 キャンペーン活動を説明するときは、全体を話したあとで、詳しい説明をしてみたい。 													

